

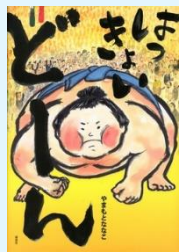
# ゆうあいえほんだより

2019年11月発行

Akiko Aoki

10月は運動会や芋掘り、ハロウィンとイベントがたくさんありました。運動会では、子どもたちの頑張りに自然と笑顔になり、とても元気をもらいました。

今月の絵本テーマは『相撲』です。11月は九州場所があり、街中を歩いてもお相撲さんに出会う機会が増えます。日本を代表するスポーツである相撲。我が家もリビングで時々相撲大会をしており、親子のコミュニケーションにもピッタリです。肌の触れ合いは愛着を実感でき、情緒を安定させる効果もあります。話がそれてしまいましたが、ぜひ今月も図書館や本屋さんで出会った際には手に取ってもらえたら嬉しいです。



はきよい どーん  
作：やまもと ななこ  
出版社：講談社

表紙も大迫力ですが、中はもっと迫力満点！相撲の臨場感が絵から伝わり、子どもも引き込まれること間違いなし。あるページでは土俵際の足だけを描いており、土壇場で耐える力士の表情までその足1本で感じることが出来ます。さて、どちらの力士が勝ったのか。それは読むまでのお楽しみということにしておきましょう！



そうきばやしの すもうたいかい  
作：広野 多珂子  
絵：廣野 研一  
出版社：福音館書店

様々な昆虫の対戦が繰り広げられ、それぞれの虫の特技で勝負を挑みます。どちらが勝つか予想しながら読み進めるのが面白そう。特にカブトムシとクワガタの戦いなんて、男の子ならどの時代も大興奮なシーンではないでしょうか。最近は本物に触れ合う機会が減っていますが、まずは絵本で昆虫に出会う体験をしてもらえたらと思い、チョイスしてみました。



はきよいい 畑場所  
作・絵：かがくい ひろし  
出版社：講談社

こちらは野菜たちの相撲大会。きゅうりは「きゅう竜」、玉ねぎは「たまね錦」など、お相撲さんの名前になっています。それぞれの特徴を活かした取り組みになっており、どの決まり手で勝つのか予想しながら読み進めるのが楽しいのではないのでしょうか？すでに終わっている取り組みについても、子どもとどんな技が出たかなどを話してみても面白いでしょう！

## 【今月の絵本作家】山脇百合子さん



山脇さんの絵は、柔らかいタッチで暖かく、そして優しい色使い。癒しの絵本作家さんです。代表作である『ぐりとぐら』は、50年以上経った今も子どもたちから愛されています。実の姉である中川李枝子さんが文を書き、山脇さんが絵を描く。このタッグでたくさんの素敵な作品を世に出されてきました。初期の作品の『そらいろのたね』は、種を植えたら“家が生えてきた”という物語で、ひっそりとぐりとぐらが出てきたり、生えてきた家がどんどん大きくなったりと子どもにはたまらない想像の世界が広がっています。岸田衿子さんとタッグを組んだ『きょうのおべんとう なんだろうな』や『せっけんつけてぶくぶくぶわー』もおすすめ！

